

芝桜のため草むしり

中田商事 スタッフが率先して手入れ

中田商事(中田純一社長、三重県伊賀市)では最近、昼食を終えた事務員やドライバーがビニール袋を片手に事務所を出て行く。これは芝桜は毎年5月頃に花を



は従業員が主体となっていて、昨年の秋に事務所周辺に植えた「芝桜」の手入れをしているのだという。

咲かせ、環境が良ければ1株で直径50センチほどに広がり、満開時は地表を埋め尽くすほど。しかし、植え付けから生長するまでは雑草の侵入がある。そこでスタッフは、芝桜が雑草に覆いかぶさってしまう前に地道に抜き取っているのだ。

中田社長は「地面が見えなくなるくらい芝桜が密集すれば、雑草の侵入がなくなる。誰から言われるわけでもなく、自分らの意思で空いた時間を使って取り組んでいるところに組織の変化を感じている」と話す。

(加藤 崇)